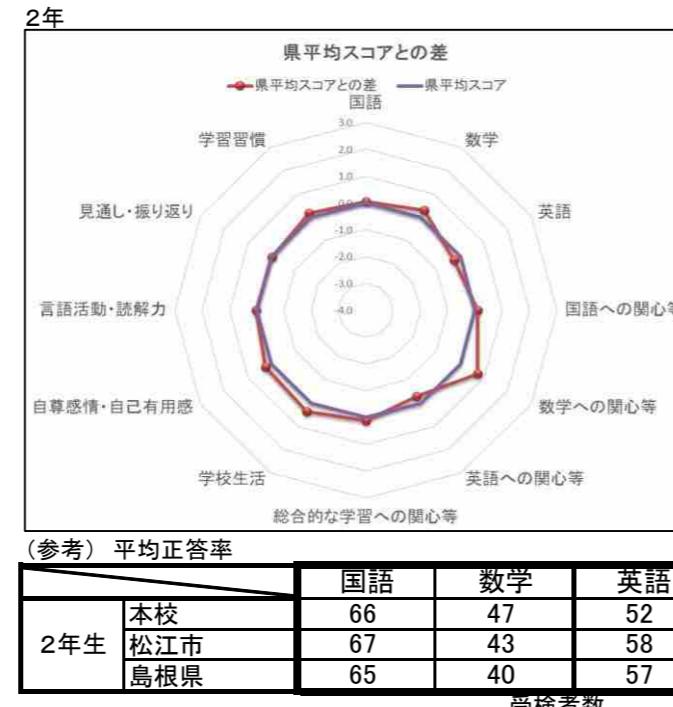
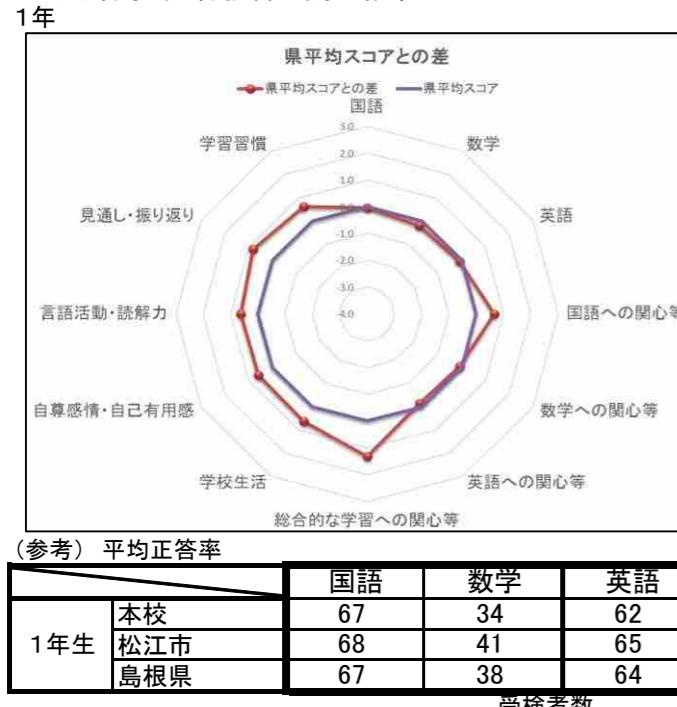


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立湖北中学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対策
1年	国語	○漢字の読み取り、書き取りでは、得点が高かった。 ●文章にまとめ書く能力に課題がある。	△毎時間の漢字の書き取り小テストを継続する。 △説明文の要約や、作品の批評文、レポートなど、様々な形式の文章を書く機会を多く設定し、様々な形式を書くことに慣れさせる。
	数学	○基本的な計算の力はついている。 ●図形領域に課題がある。	△小テストを実施し、計算力の向上を目指す。 △平面図形、空間図形の学習をする際、模型や操作活動を取り入れ、関心・意欲を高める工夫をする。
	英語	○英文の概要や対話文の読み取りの能力は、やや高い。 ●聞く・書く能力は全体的にやや低い。	△初見の英文も読み取る機会をもち、さらに読む力を養う。 △聞く、話す、読む、書くの統合的な学習を設定する。 △チャット活動を帶活動で行い、自分の周りのことや考え方を伝えあう場を設ける。
2年	国語	○文章を読み取り、設問に答える能力は高い。 ○漢字の読み取り、書き取りでは、得点が高かった。 ●話す・聞く能力に課題がある。	△構成をとらえた上で、場面ごとに読み取ったり展開に即して読み取る活動を継続する。 △毎時間の漢字の書き取り小テストを継続する。 △話し合い活動を充実させ、一人一人が自分の考えを述べる場面を多く設定する。
	数学	○数と式領域において、単純な計算だけでなく、活用問題においても正答率が高かった。 ○数学的な見方や考え方を記述式で答える設問への正答率が高く、無解答率は低かった。 ●空間図形、資料の活用領域の正答率がやや低かった。	△計算の過程の意味を大切にする指導を継続する。 △説明や証明を読む指導を継続する。 △1年生での既習事項、特に空間図形、資料の活用についての課題に取り組ませる時間を生み出す工夫をする。
	英語	●聞く・読む・書く能力に課題があり、特に聞く能力は県平均を大きく下回った。 ●語彙の知識・理解についても、特定の問題で正答率の高い問題はあるものの全体的には県平均を下回っている。	△英語を処理する能力が低いので、処理速度を速めるトレーニングを継続する(10月中旬から実施)。 △生徒が授業の中で触れる表現に偏りがある可能性が高いため、授業内での言語活動において、生徒に多くの表現を提示し、理解語彙を増やす必要がある。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かつた」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○: 成果、●: 課題)	対策
1年	授業改善に 関わる事項	○ペアやグループによる話し合い活動や調べ学習が授業に取り入れられ、多くの生徒が積極的に参加した。 ○地域に対する関心が高く、総合的な学習の時間における地域課題の課題解決学習にも意欲的に取り組んだ。	△毎時間のめあてと振り返りの確認、ペアやグループ活動を取り入れた授業の工夫、等の現在の方向性をさらに深める。
	家庭学習に 関わる事項	○授業の復習をしている割合が高い。 ●家庭学習を平日1時間以上行っている割合が低い。	△メディア依存にならないよう、引き続き啓発活動を行う。 △自学帳の内容など、家庭学習の方法を全体・個別に指導する。
2年	授業改善に 関わる事項	○授業の中で、話し合い活動やグループによる調べ学習を進んで取り入れた。 ○総合的な学習の時間で地域課題を取り扱っている。地域の課題や将来について考える機会が増えた。	△現在の方向性を大切にし、さらに深める。
	家庭学習に 関わる事項	○授業の復習をしている割合が高い。 ○宿題を丁寧に見て返しているという意見の割合が高く、8割を超えている。 ○携帯電話の使用時間が短い。 ●家庭学習の時間が県平均を下回っている。	△授業と家庭学習との関連を深め、さらに丁寧に指導する。 △各教科で計画的に課題を出す。

平成31年2月15日

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

